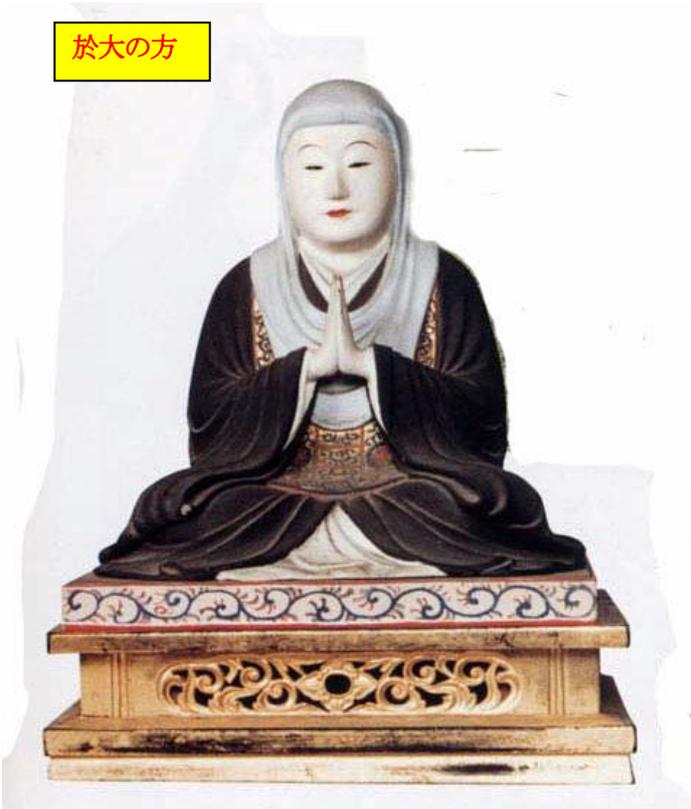


## 1、於大の方（おだいのかた）

於大の方



於大の方は、伝通院とも呼んでいる。三河の国（愛知県）刈屋領主・水野忠政の次女として生まれた。天文10年（1541）に松平広忠（家康の父）と結婚して、竹千代（後の大御所徳川家康）を生んだ。

しかし、於大の方の実家水野氏が広忠と敵対関係になる勢力になったため離婚をやむなくされた。

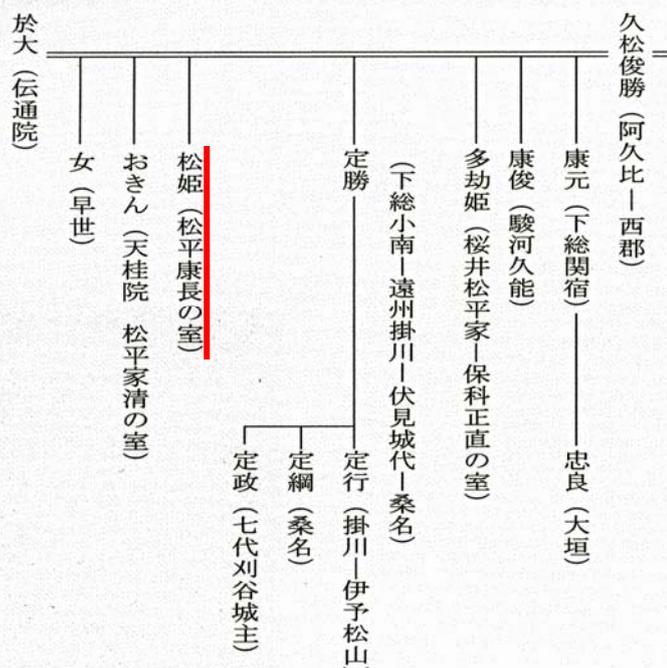
ついで、下記の久松俊勝との関係図をみてもわかるように、久松俊勝と再婚して、7人の子どもを生んだ。その中の一人が松姫である。

この松姫が、のちに松本城主となる戸田康長の正室となることになる。寛永19年（1642）に松本城主となった水野家初代城主・水野忠清との関係は、於大の方の甥（おい）

にあたる。

この水野家6代、83年間の時代は、藩のしくみを固めたり、飢饉の際にはお救いをしたり、諸遊芸の稽古を奨励、信府統記を編纂したり、財政改革に手をつけたりした。6代目忠恒（ただつね）は、殿中刃傷のため改易（かいえき）された。しかしお家取り潰しとはならず、家康の生みの母で縁続きということがものをいい、再興の機会が与えられた。

久松俊勝と於大関係系図

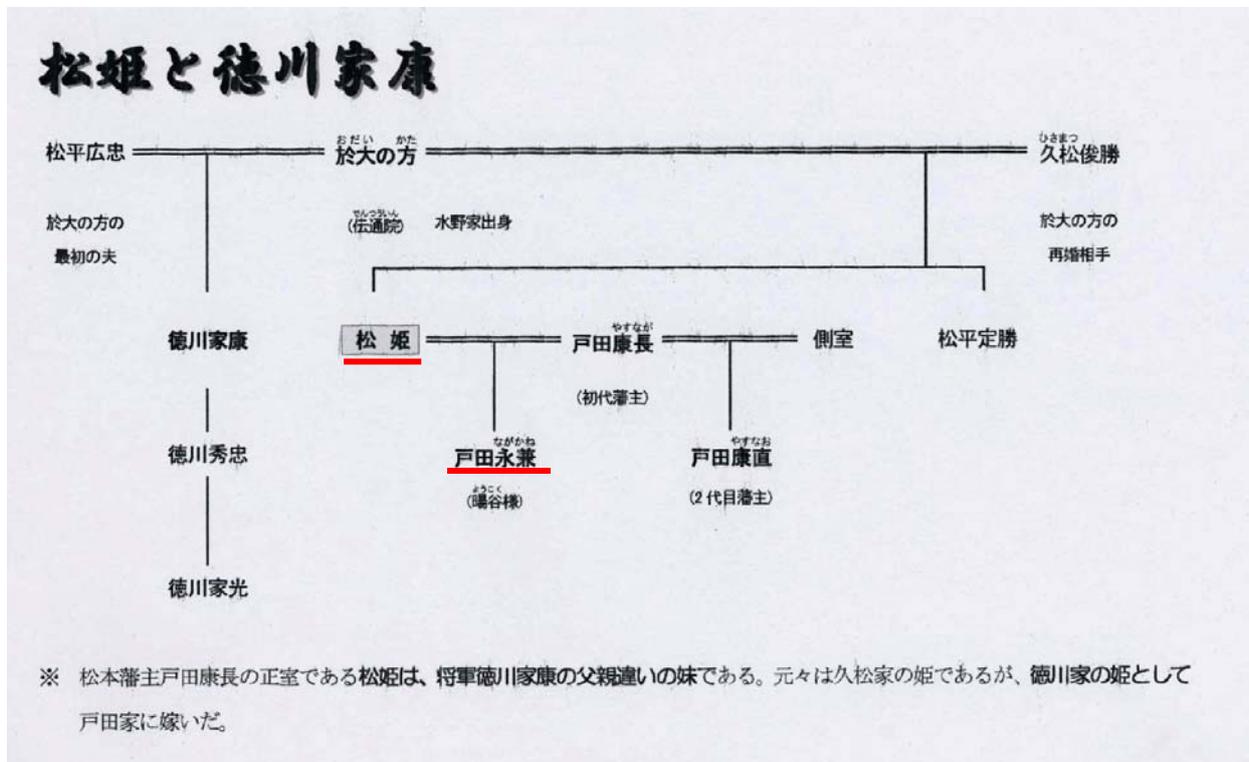


## 2、松姫

松姫は徳川家康の生母・於大の方の息女である。下記の「松姫と徳川家康」の関係図からも分かるように、再婚相手の久松俊勝との間に生まれた。つまり将軍家康とは父親違いの妹である。もともとは久松家の姫であるが、徳川家の姫として戸田康長の正室として迎えられた。

康長との間にもうけた虎松（後の戸田永兼）は生来の病弱で家を継げず、40歳で死去した。

松姫は天正19年（1591）三河国二連木（にれんぎ）で24歳の生涯を閉じた。一度も松本の地を訪れたことはなかった。



松姫は淑慎（しゅくしん）様として、戸田氏の氏神・松本神社に暁谷（ようこく）様（永兼の祭神名）ほかとともに祀られている。